

【No.07】 入門編3
2021年6月2日

7. 慶長遣欧使節ってなに？

慶長遣欧使節とは…伊達政宗公がメキシコとの通商交易を企図して、1613年（慶長18年）にヨーロッパへ派遣した外交使節。スペイン人宣教師ルイス・ソテロと伊達家臣支倉六右衛門常長が大使として交渉にあたり、メキシコ・キューバ・スペイン・フランス・イタリア・フィリピンを歴訪するも交渉は難航。1620年（元和6年）成果の乏しいまま、常長は帰国した。

目的 ①仙台藩とメキシコ（ノビスパニア）との通商交易
②仙台藩への宣教師の派遣 ……その他の説も

背景 ①幕府の対外政策の転換・キリシタン禁教令
②大坂の陣以前の徳川政権下での伊達家の立ち位置

黒船 仙台領内で木造帆船を建造
サン・ファン・パウティスタ
=洗礼者聖ヨハネ（スペイン語）

太平洋を2往復

日本へは戻らずにスペイン側へ売却



復元船サン・ファン・パウティスタ号

人員 1613年の出帆時の乗員=仙台藩士その他、南蛮人40人
幕府役人10人程、商売人など合計180人余
ヨーロッパ訪問団=30人程度

交渉

- ・当時スペインの植民地だったメキシコとの交易にはスペイン国王の許可が必要→メキシコ経由でスペインへ
- ・幕府の禁教令と仙台藩のキリスト教容認政策の乖離
- ・常長への人物評価は概ね高い
- ・ソテロの誇大表現への不信感
- ・目的遂行は叶わなかった
- ・後世への遺産的価値は高い

支倉常長像 仙台市博物館蔵
国宝・ユネスコ記憶遺産

成果

- ・常長はマドリッドで国王臨席の下洗礼を受け、フィリッポ・フランシスコの洗礼名を授かる
- ・常長ら随員8名がローマ市公民権証書を授けられる
- ・常長はパラチーノ伯となり貴族に列せられる
- ・持ち帰った品々=慶長遣欧使節関係資料の歴史的価値

常長とソテロのその後

支倉常長…帰国後1年経たず1621年（元和7年）夏頃までに死没
家系図では1622年死没 1654年死没説もあり
ルイス・ソテロ…1622年密入国を図り薩摩で捕縛、大村入牢
政宗公の助命嘆願も虚しく1624年放虎原で火刑